

JEITA

電子情報技術産業協会技術レポート

Technical Report of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA CPR-3104

録画基準画像 Reference Video for Recording Time

2012年7月制定

作成

AV&IT標準化委員会

AV & IT Standardization Committee

発行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 用語の意味	1
3 参考資料	1
4 概要	1
4.1 検討内容	1
4.2 検討結果	1
5 詳細	2
5.1 方針検討	2
5.2 実放送の測定	3
5.3 素材画像の検討	15
5.4 シミュレーション結果	15
6 結果	18
解説	19

電子情報技術産業協会技術レポート

録画基準画像

Reference Video for Recording Time

1 適用範囲

この技術レポートは、録画機器の記録時間の評価に用いる録画基準画像を定める。

2 用語の意味

この技術レポートで用いる主な用語の意味は次による。

a) クリティカリティ

画像符号化劣化程度の絵柄依存性、参考資料 [1] による。

b) 困難度

クリティカリティに準じ、当検討で使ったパラメータで表した画像符号化劣化程度の絵柄依存性。

3 参考資料

- [1] 中須英輔，神田菊文，市ヶ谷敦朗，黒住正顕，西田幸博：“異種符号化映像フォーマットの総合画質評価”，映像情報メディア学会誌 Vol. 62, No.2, pp.262～270 (2008)
- [2] 中須英輔，中田安優，浦野丈治，清水勉：“デジタル放送の符号化画質評価実験”，映像学技報 BCS98-3, 22, 19, pp.13～18 (Mar. 1998)
- [3] 東京理科大学 松田一朗：“標準動画像第2版紹介と映像の評価手法について”，(社)映像情報メディア学会・(社)電波産業界 無料講習会資料 2010年3月9日

4 概要

4.1 検討内容

録画機器の長時間録画モードの平均転送レートを規定するために使用可能な基準画像の策定。それは、転送レートを変動させる要因を多く含み、一般に放送されている番組を録画した場合の平均転送レートを規定するのに妥当と認められる内容であること。

4.2 検討結果

検討内容を満たす基準画像を策定した。

- a) 平均転送レートが満足されていることを実証するための画像を策定。
- b) 基準動画として納得性のあるものは現実に放送されているものを参照すべきとし、動画像をエンコードするときの「クリティカリティ」の測定法を設定した。
- c) これによって実際の放送をモニタして困難度を測定し、番組時間長も鑑み基準とすべき動画像の要件を特定した。この要件に基づき ARIB/ITE が作成、販売を 2009 年から行っている「標準動画像第2版」の画像を素材として基準画像を策定した。